

# 神戸市の取り組み～これまでのUDのあゆみ



神戸は美しい港、緑豊かな六甲山という恵まれた自然を背景に、ファッションや洋菓子、ジャズ、多彩な食文化など、おしゃれで魅力あふれるまちです。

そんな神戸のまちをもっと「住み続けたいまち」にしていくために、神戸を訪れたすべての人に「来てよかった、また来たいな」と感じてもらえるまちにするために、ユニバーサルデザインへの取り組みを進めてきました。



他都市に先駆けて制定、福祉のまちづくりを推進しました



## ユニバーサルデザインのあゆみ

★1977年（昭和52年）「神戸市民の福祉をまもる条例」制定

★1995年（平成7年）1月 阪神・淡路大震災発生

震災以降、市内各所でユニバーサルデザインへの取り組みが活発化していきます

地域での助けあいや支えあいの経験から人と人とのつながりの大切さを実感しました。



★2002年（平成14年）7月 長田区ユニバーサルデザイン研究会の発足

地元企業、各種団体、住民、学校、行政機関など多彩なメンバーで構成され、活動しています。



★2003年（平成15年）3月 神戸市民ユニバーサルデザイン意識調査の実施

★2003年（平成15年）5月

こうべUD広場（こうべユニバーサルデザイン推進会議）の発足

市内のUDの動きを結集し、発足しました。



★2004年（平成16年）3月 こうべUD広場からの呼びかけ

～世界一ユニバーサルなまち神戸をめざして～の策定



「ユニバーサルなまち神戸」の実現に向けて、市民・事業者・行政の役割をまとめました。

★2005年（平成17年）8月 第3回ユニバーサルデザイン全国大会を神戸で開催

以降、「こうべユニバーサルデザインフェア」の開催などさまざまな啓発活動を展開しています

阪神・淡路大震災から10年を経過し、復興に向かう神戸がめざす新しい都市像のひとつとして、全国・世界に発信しました。

